

授 業 科目名	【 G カ リ キ ュ ラ ム 】 体育実技Ⅱ （スポーツ法コース専用クラス） 【 E F カ リ キ ュ ラ ム 】 保健体育Ⅳ （スポーツ法コース専用クラス）		その他参照	開講年次	【 G 】 1 【 EF 】 1	単位数	【 G 】 1 【 EF 】 1
科目区分	保健体育科目：【 G 】 教科及び教科の指導法に関する科目 （-・-・-・-）／【 EF 】 教科及び教科の指導法に関する科目 （-・-・-・-）						
担当形態	単独	【 G 】 教員の免許状取得のための （-・-・-・-） 科目 【 EF 】 教員の免許状取得のための （-・-・-・-） 科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブタイトル	球技スポーツ			担当者	平田 昂大		
授業概要	【概要】 ・様々なスポーツ種目の実践を通して、それぞれのスポーツが持つ動作特性や発揮される身体能力の理解を図る。 ・複数の種目を経験することで、自らの身体・動作の個性を見直し、自らのスポーツ実践にフィードバックできるようにする。 ・スポーツ指導において、各人の身体特性に応じた指導方法のあり方や可能性を考える機会を提供する。 【到達目標】 ・各種スポーツのルール理解や個人戦術を体得し、ゲームの中で実践する。 ・自分と他者との身体の違いを理解し、生涯スポーツの実践や指導場面に応用できる。						
	履修条件						
	スポーツウェア、室内シューズ、タオル、飲み物、筆記用具を準備すること。						
	教科書・参考書						
授業回数		授業内容					
1	バレーボール 5 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
2	バレーボール 6 （基本動作を身につける、形式練習）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
3	バレーボール 7 （基本動作を身につける、形式練習）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
4	バレーボール 8 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
5	バレーボール 9 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
6	フットサル 1 （試合）						
	予習：バスケットボールのルールと競技特性を確認する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
7	フットサル 2 （ルール・競技特性の確認、練習試合）						
	予習：バスケットボールのルールと競技特性を確認する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
8	フットサル 3 （ゴール型競技の動き方を学ぶ、バスケットボールの基本動作を身につける）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
9	フットサル 4 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
10	フットサル 5 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
11	フットサル 6 （基本動作を身につける、形式練習）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
12	フットサル 7 （基本動作を身につける、形式練習）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
13	フットサル 8 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
14	フットサル 9 （試合）						
	予習：改善点を克服するための練習メニューを作成する。			復習：自身のできたこととできなかったことを確認する。			
15	総括						
	予習：各競技で実際に行った指導方法をまとめる。			復習：これまでの各競技の競技特性をまとめる。			
評価方法	①授業時に課す課題（20%）、②学習意欲・態度・協調性（60%）、③技能の習熟度（20%）の観点から総合的に評価する。						
評価基準	上記授業単元の内容について、レポート課題に的確に応え、主体的且つ意欲的に実技実習ができた者は「A」（うち特に優れたものには「S」）、授業内容を理解し、適切な実技実習ができた者はその程度に応じて「B」または「C」とする。出席状況が不良な者、あるいは授業内容の理解や実技実習が不十分な者はその程度に応じて「D」「E」、評価不能の場合は「F」とする。 ※技能レベルの優劣は問わない。授業課題に対する分析・実践力、意欲・関心、主体的な姿勢を重視する。						
その他	1. スポーツマンシップ・フェアプレイに反する行為が見られた場合は即刻授業を停止する 2. 上記の予定は変更する場合がある ※G 刈：法【-】 蹴【必修】 情【-】／EF 刈：法【-】 蹴【必修】 経【-】						